

第5回「原発と人権」全国研究・市民交流集会 in ふくしま

オンライン プレ シンポジウム

福島原発事故から 10 年 これまで と これから

2020 年 10 月 3 日 (土)

13:30~16:00

オンラインミーティングシステム ZOOM 無料

お申込み : <https://forms.gle/Jq4SXfWeL68JXn2G7>

東京電力福島第一原発事故から 10 年。いまだにふるさとに帰れない避難者は、9~10 万人と推定され、様々な困難が新たに発生しています。

健康状態の悪化。極めて高いストレス。社会機能に障害を生ずるまでの抑うつ・不安。経済的困難。住宅支援打ち切りに対する不安。等々。

帰還を希望する避難者も、高い放射線量、医療・福祉体制が回復しないこと、ライフラインをはじめ生活環境が整わないこと、生業が失われていること、などから、まだまだ帰ることが出来ていません。原発事故の被害の膨大さ、過酷さ、被害回復の困難さを改めて思い知らされます。

にもかかわらず、東電はまともに賠償に応じようとしません。

政府は、被害者への補償を次々と打ち切り、帰還を強制してきました。また、広範な世論を無視して原発の再稼働を強行しています。原発の危険性が明らかとなり、事故原因すら十分に解明されていないのに。

こうした状況の中で、本企画では、そもそも、私たちは、核エネルギーについてどう捉え、原発の問題にどう向き合ったらよいかについて講演をいただき、被災地福島の現在の状況、訴訟の現状と展望、各地の市民の運動についての報告を受けて、現状をどう転換できるか考えたいと思います。

● 主催 ●

第5回「原発と人権」全国研究・市民交流集会 IN ふくしま 実行委員会

「原発と人権」ネットワーク <http://genpatu-jinken.net/>

福島原発事故の被害救済と復興を検証する会

ご連絡・お問い合わせ : [原発と人権ネットワーク genjinnetwork@gmail.com](mailto:genjinnetwork@gmail.com)

● 講演 ●

池内了さん

核燃料サイクルと核エネルギーのあり方を考える

● 報告 ●

伊東達也さん

10年目の被災地の今

● 報告 ●

糸長浩司さん

飯館などリスクの高い復興を問う

● 訴訟報告 ●

南雲芳夫さん

被害者訴訟の司法戦略について

米倉 勉さん

福島原発避難者訴訟

仙台高裁判決の意義について

● 各地リレー報告 ●

○東海第2原発○

差止訴訟、県民投票について

○福井○

県内の原発の現状について

○青森○

六ヶ所村

核燃サイクルと核のゴミについて

○九州○

差止訴訟・

避難者訴訟福岡高裁判決
について

各登壇者のプロフィールは、裏面をご参照ください。

プログラムの内容は、変更される場合があります。

左記の「原発と人権」ネットワークのHPにて最新版をご確認ください。

● プログラム ●

13:30～13:35

・主催者挨拶・

磯野弥生(実行委員長)

13:35～14:05

核燃料サイクルと核エネルギーのあり方について

池内 了さん

14:05～14:25

10年目の被災地の今

伊東 達也さん

14:25～14:40

飯館などのリスクの高い復興を問う

糸長浩司さん

14:40～15:00

司法戦略について～裁判の到達点と今後～

南雲芳夫さん

(弁護士・『生業を返せ、地域を返せ!』福島原発訴訟弁護団)

15:00～15:15

福島原発避難者訴訟仙台高裁判決報告

米倉 勉さん

(弁護士・原発被害弁護団全国連絡会代表世話人)

15:15～15:25

報告に対する質疑応答

15:25～15:50

～各地の原告団・弁護団からのリレー報告～

○東海第2原発○

差止訴訟, 県民投票について

○福井○

県内の原発の現状について

○青森○

核燃料サイクルと核のゴミについて

○九州○

川内原発/玄海原発差止訴訟・
避難者訴訟福岡高裁判決について

15:50～16:00

まとめ 松野信夫(実行委員)

運営資金カンパのお願い

下記の郵便振込口座への送金をお願いします。

口座番号/00160-4-616895

加入者名/「原発と人権」全国研究・交流集会実行委員会

池内 了(いけうち さとる)さん

専門は宇宙論・宇宙物理学、科学と社会。1944年兵庫県姫路市生まれ。名古屋大学名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授。科学・技術と社会の関わりについて教育・評論・執筆・講演活動に従事する一方で新潟県福島原発事故検証委員会総括委員長も務める。著書に、『科学者と戦争』、『科学者と軍事研究』、『科学・技術と現代社会』、『宇宙開発は平和のために』、『司馬江漢』、『科学者はなぜ軍事研究に手を染めてはならないか』などがある。

伊東 達也(いとう たつや)さん

福島県立高校に教員として8年勤務後、いわき市議として5期18年間、福島県議として3期12年間活動。2003年に議員引退後、障がい者支援運動・原発問題運動・医療生協運動を三本柱にして活動し、現在に至る。

糸長 浩司(いとなが こうじ)さん

日本大学生物資源科学部特任教授。環境建築、住民参加、世界のエコビレッジ研究。1994年から飯館村のエコな村づくりの支援。震災後に放射能専門家や村民と飯館村放射能エコロジー研究会を組織し、汚染実態調査研究と村民支援活動を継続し、森林汚染、汚染バイオマス発電問題を追及。『東日本大震災・復興 7 光と影』
BIOCITY 他

「原発と人権」全国研究・市民交流集会 in ふくしま
について

『「原発と人権」全国研究・市民交流集会 in ふくしま』は、原発事故の翌年2012年3月に、福島大学を会場にお借りして開催されました。ジャーナリスト、研究者、法律家、医者、市民と諸団体が、原発事故被害の完全な賠償・回復と原発のない社会を目指して実行委員会を結成して企画しました。その後2年に1回、これまで4回、開催してきました。

第5回集会は本年10月に、福島大学にて開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期せざるをえず、来年1月～3月の開催を目指して準備を進めています。

本来、第5回集會を開催する予定であった10月3日に、プレシンプの形で本企画を開催します。第5回集會についても詳細が決定次第、後日、ご案内しますので、是非ご参加ください。